

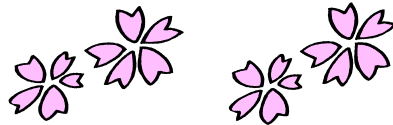
Topic 1

合格体験記 喜びの声&後輩へのアドバイス

宮崎 烈くん

■合格大学：日本医療科学大学 リハビリテーション学部
作業療法学専攻

■学校名：私立埼玉平成高校
■校舎名：東松山校



● 合格を手にしたの感想

第一志望の大学をAO入試で受け、一発で合格できたのでとても嬉しかったです。少し肩の荷が下りました。

● 将来の夢や目標は？

国家試験に合格できるよう大学でしっかりと勉強し、資格を取って、作業療法士になりたいと思っています。

● 大学を選んだきっかけは？

オープンキャンパスで案内していただいた先生や先輩方が常に声をかけてくださり、見学者を気にかけてくれていることを体感したからです。通うのにも近く、環境の変化が少ない分、勉強に集中できると思いました。この学部を選んだきっかけは、高校の職業適性診断で、理学療法士と作業療法士という診断結果がでたことです。両方の仕事を調べていくうちに実際にやってみたいと思うようになりました。オープンキャンパスでは、先生や先輩方に理学療法士と作業療法士の違いなど具体的にお聞きしたり、いろいろ体験したりすることで、作業療法士に決めることができました。

● 俊英館に通塾して良かったところは？

家庭教師で勉強していたときよりも、集中して勉強する時間が増え、成績が上がりました。

先生方へ

多くの先生に面接練習をしていただき、ありがとうございました。
お陰で無事大学に合格しました。本当にありがとうございました。

● 後輩へのアドバイス

その日のうちにしっかり復習し、分からないところはすぐ答えを見るのではなく、教科書やノート、参考書などを使って調べる。それでも分からないときは、先生に聞き、理解したところでもう1回解き直すことが大事です。

映像授業のメリットは、好きなときに好きなだけ見ることができ、理解できなかったところがあれば、もう1度戻して見ることができることです。

推薦入試合格内定の報告

指定校推薦は、学科試験を受けずに、この時期に合格内定をもらうことができます。高1・高2のみなさんも、先輩から指定校推薦の合格内定のコツをぜひ聞いて見てください。

■中央大学 商学部 S・Yくん(富岡校)

高1から学校の定期テストにこだわって勉強していました。塾では分からない問題をどんどん質問して、できるだけ多くの問題を自力で正解させる(質問した問題をもう一度自分で解き直す)ことを意識して取り組みました。自然と塾の利用時間も長くなり、成績も上がっていきました。

受験生はこの時期、模擬テストの合格判定が現実味を帯びてきて、併願校を具体的に決定していく時期になります。いままでは憧れの第一志望のみを「志望校」としてきた人も、**併願校を適切に決めることによって、第一志望校合格の可能性も高まってきます**。以下のポイントをチェックして、自分にとってベストな併願校を決定してください。

◆ 受験校のレベルを適切に選ぶ

特別の事情がない限り、「国立しか受けない」とか「早稲田一本」といった受験の仕方は避けましょう。模擬テストの合格判定から、安全校（A・B判定の大学）、実力相応校（B・C判定）、挑戦校（C・D判定）をそれぞれ決めましょう。安全校を2校、実力相応校を3校、挑戦校を4校受けると9校を受験することになり、合格の可能性はぐっと高まります。現役生は、模擬テストが終了する12月以降も実力は上昇します。C・D判定の大学学部を多めに受けておくのが戦略的にもベターです。

◆ 入試科目の確認と決定

併願校でしか使用しない入試科目があると、勉強の効率は落ちます。第一志望でしか受験しない科目であればやる気も起きますが、併願校でしか使用しない場合は、勉強にかける時間も少なくなり、得点率が低くなりがちです。第一志望に合格するために、その科目がどれほど必要なのか考え、思い切って捨ててしまう（併願校を変更する）のも一策です。「第二志望の大学にだけ、古典が必要」などという時は、古典の必要のない大学学部を他に探すのがよいでしょう。

◆ 受験校カレンダーの作成

連続受験は予想以上に体力を消耗します。朝早くから1日ばかりで受験し、翌日の準備などで追われ、集中した勉強時間が取れません。それが4日も続くと、肝心の学力そのものが落ちてしまいます。3日連続が限度と考えましょう。その際も、3日目に第一志望を受験するスケジュールは避けましょう。

また、第一志望がその年の受験の1回目というのもよくありません。思わぬハプニングや極度の緊張から、実力が出し切れないことが多々あります。第一志望の受験の前に、すでに1度受験を経験していることが必ずアドバンテージとなります。「受験校カレンダー」は高校で提出を求められることもあります。そうでなくても自分で作成して、ベストを尽くせるよう準備に万全を期しましょう。



1 2017年度センター試験 現役志願者率 過去最高か？

2017年度大学入試センター試験の出願が締め切られた。大学入試センターから発表された出願総数は540,359人であった。前年と比較すると8,479人増加している。

内訳をみると、現役生が6,840人増、既卒生が1,639人増と、いずれも増加している。来春の18歳人口は微増の見込みであるが、現役生志願者数がこのまま増加すれば、昨年過去最高を記録した現役志願率のさらなる更新もありえ、注目されるどころだ。センター試験の確定志願者数は12月上旬に発表される予定である。

2 私大への国の補助10%割れ 1971年度以来

私立大学の運営費用に対する国からの補助金の割合が2015年度は9.9%になり、44年ぶりに10%割れしたことがわかった。国会では補助割合2分の1をめざすことが決議されているが、財政難に加え、私大の定員増などで学生1人あたりの補助額もピーク時の6割に減っている。その分、授業料が高くなり、家計の負担は増している。

日本私立学校振興・共済事業団（東京）の推計によると、私大の人件費や教育研究費、光熱費など大学運営にかかる主要な「経常的経費」の総額は、15年度に3兆1773億円だった。これに対し、事業団を通じて877の私大（短大、高専も含む）に渡された補助金は総額約3153億円で補助割合は9.9%になった。10%を下回ったのは1971年度以来となる。

文部科学省の統計では、短大などを含む私大の学生数は70年に約128万人だったが、15年には約222万人に増えている。同事業団によると、私大生1人あたりでは、国からの補助金は81年度が24万1千円とピークで、15年度は15万6千円だった。



3 首都圏・私立大学ランキング2016

私立大学一般入試が本格的にスタートするのに先駆けて、2016年度の首都圏の私立大学の受験者数や合格倍率、入学辞退率を紹介する。

志願者数が10万人を超えたのは明治大学、早稲田大学、法政大学、日本大学の4大学。法政大学と日本大学は昨年と比べて6千人ほど志願者数が増えて10万人の大台に乗った。受験者数を指標としたときの人気ランキングでは1位が明治大学、2位が早稲田大学、3位に法政大学と昨年度と順位に変化はない。また、合格倍率は青山学院大学がもっとも高く5.8倍、続いて早稲田大学が5.6倍と続く。入学辞退率（「合格者数と募集人員との差」の「合格者数」に対する割合）を見ると、54.1%で学習院大学がもっとも低かった。2位は59.4%で慶應義塾大学、3位は69.7%で上智大学という結果となった。

	入学定員	募集人員	志望者数	受験者数	合格者数	実績倍数	入学辞退率
明治大学	6,730	4,697	108,500	102,729	24,144	4.3	80.5%
早稲田大学	8,940	3,946	108,039	100,324	17,976	5.6	78.0%
法政大学	6,441	4,525	101,976	97,997	23,192	4.2	80.5%
日本大学	14,760	7,429	104,558	98,152	29,517	3.3	74.8%
東洋大学	6,732	5,286	84,886	82,278	23,938	3.4	77.9%
立教大学	4,150	2,926	60,693	59,033	12,838	4.6	77.2%
中央大学	5,507	3,783	75,275	70,939	16,431	4.3	77.0%
青山学院大学	3,902	2,733	59,850	55,074	9,504	5.8	71.2%
東京理科大学	3,565	2,769	51,404	48,862	16,268	3.0	83.0%
慶應義塾大学	6,405	3,758	44,797	41,251	9,252	4.5	59.4%
上智大学	2,615	1,787	27,748	27,046	5,894	4.6	69.7%
駒澤大学	3,215	2,489	38,748	38,033	10,586	3.6	76.5%

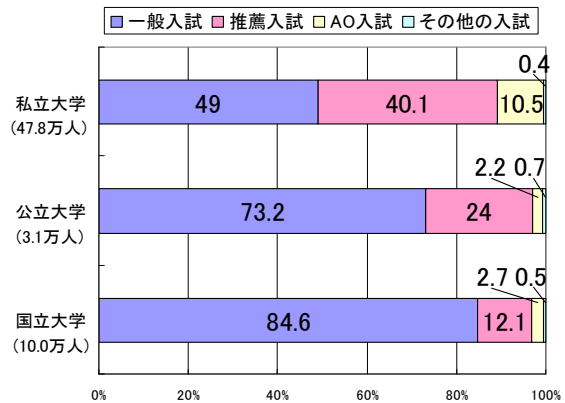
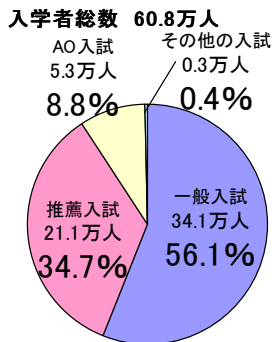
◇ 大学入試を基礎から知る

第6回 <推薦入試の仕組みは？>

“入学者の3分の1を占める推薦入試”

「推薦入試」は一般入試に次ぐ規模の選抜方式で、全体の9割以上の大学が実施している。また、「推薦入試」で大学へ入学した人は、国公立大学では12%に過ぎないが、私立大学では40%にのぼっている。このように、私立大学においては、AO入試と合わせて、入学者の約半数に占める主要な入試形態となっている。

● 2016年度 入試形態別入学者



“指定校制”と「公募制」の2種類あり”

「推薦入試」の定義は「出身高校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試」となっている。一般入試との大きな違いは、出身高校長の推薦を受けないと出願できないという点である。出願にあたっては、「調査書の評定平均値〇以上」といった出願条件が設定されており、だれでも受験できるわけではない。さらに、多くの私立大学では、大学が指定した特定の高校の生徒を対象にした「指定校制」を採用している。これに対し、出願条件を満たしていれば、どの高校出身者でも出願できるのが「公募制」である。

● 指定校制と公募制の仕組み

指定校制推薦	大学が特定の高校を指定して実施する入試方式。「合格率はほぼ100%」という特徴がある。勉強や部活の成績などを評価して、校内選考が行われる。
公募制一般推薦	大学ごとの出願資格を満たして、高校から推薦書もらえば誰でも受験可能。評定平均値に基準があることが多い。
公募制特別推薦	スポーツや文化活動における実績などが評価される。評定平均値に基準があることは少ない。

“国公立大学の推薦入試”

募集人員が少ない上に、「評定平均値 4.0 以上」など厳しい成績基準を設定している。また、センター試験を課す場合と課さない場合の2タイプに別れ、それにより入試日程も大きく異なる。大学での試験は、面接と小論文が課されることが多く、中には学科に関連した口頭試問や専門的知識を要する小論文を課す大学もある。

“私立大学の推薦入試”

出願条件は国公立大学ほど厳しくなく、特に中部・関西地方には成績基準を設けない大学も多い。選考方法は大学ごとに大きく異なっており、小論文や適性検査、基礎学力試験、面接、調査書等の書類審査を様々に組み合わせたものになっている。一般的な「推薦入試」の他に、各種運動競技に秀でた学生の獲得を目的とした「スポーツ推薦」、資格・技能をもつ受験生を優遇する「有資格者推薦」、生徒会活動や社会・地域奉仕活動、芸術・文化活動で活躍した受験生を対象にした「課外活動推薦」なども実施されている。